公園などにいる現役世代にしぼった演説原稿（ジェンダー平等）

２０２２年２月７日　　埼玉県委員会

　みなさん、こちらは日本共産党です。今年の夏におこなわれる参議院選挙にむけての私たち日本共産党の政策などをお話しさせていただきます。お近くからお騒がせしますが、どうぞよろしくお願いします。

　コロナのオミクロン株の感染が大きく広がっています。みなさんのまわりでも感染された方、濃厚接触者となった方などいらっしゃると思います。みなさんのくらしや仕事で「お困りごと」はありませんか？日本共産党は、くらしや仕事の「困った」を解決するために全力をあげています。ぜひ日本共産党にご相談ください。

　みなさんは、毎日のくらしや仕事のなかで「モヤモヤ」する思いを抱えていませんか？

「パートや派遣など非正規で働く人の多くが女性」「家事や育児の責任は女性が担って当然」という世の中にある考え方。男女での大きな賃金の格差。

「結婚すれば同じ姓を名乗ること、多くの場合は夫の姓を名乗ること」となる「実態」。同性どうしで結婚することをかたくなに認めない「現実」。

「男だから、女だから、こうあるべき」――知らず知らずのうちに当たり前のように受け入れさせられてきた社会の仕組み、価値観。こういうものに「モヤモヤ」している方は多いのではないでしょうか。

みなさんの抱えている「モヤモヤ」のうしろに政治があります。「ＬＧＢＴに生産性はない」という発言をした自民党議員、夫婦で同じ姓にするか別の姓にするかは選択できるようにするという選択的夫婦別姓の制度でさえ背を向ける自民党。

自分らしく生きたい、よりよく生きたい。その願いを妨げている政治を変えて、ジェンダー平等の新しい社会をつくる。そのために私たち日本共産党は全力をあげます。

痴漢などの性暴力は許さないと立ち上がっている方々、選択的夫婦別姓や同性婚を求めて運動する方々、そして「おかしい」と思うがいまは声を上げられないでいる方々、私たち日本共産党は、ジェンダー平等の社会を願うみなさんと一緒に力を合わせます。

　みなさん、「ジェンダーギャップ指数」というものをお聞きになったことはあるでしょうか。男女平等の度合いをランキングにしたものです。日本はなんと１５６カ国中１２０位と先進国では最低です。

それは男女の賃金格差という問題で露骨にあらわれています。正社員でも女性の賃金は男性の７割。非正規を含む平均給与では女性の年収は男性より約２４０万円少なく、生涯賃金では１億円近い格差になります。私たち日本共産党は、この男女の賃金の格差を政治の責任で正していくことを、ジェンダー平等の社会をつくるための中心課題として考えています。

　みなさんの抱えている「モヤモヤ」は晴らすことのできないものではありません。政治によって生み出されている「モヤモヤ」は、政治を変えることによって無くすこともできます。政治が変われば、自分らしく生きられる社会をつくりだすことができます。そのためには今年の夏におこなわれる参議院選挙がとても重要です。ジェンダー平等の社会をめざす日本共産党にみなさんの大きなご支援をお寄せください。

最後になりますが、日本共産党が発行する「しんぶん赤旗」は新しい政治への希望がわく新聞です。いま、「しんぶん赤旗」日曜版の一カ月無料お試しキャンペーンをおこなっています。ぜひこの機会に「しんぶん赤旗」に触れていただくことをお願いして、この場所をお借りしての日本共産党の訴えを終わりにします。ありがとうございました。